

中国語における二重目的語文とヴォイス構文

温 琳

現代中国語において、二重目的語文とヴォイス構文は表面上関係のないように見えるが、「授与」と「取得」という概念に視点を置くと、実際には密接な関係を看取することができる。本稿は形式意味論の立場から、述語論理の手法を用いて二重目的語文とヴォイス構文の間にある意味関係を考える。

1 二重目的語文の意味と論理記述

1.1 二重目的語文とはどのような構文か

朱德熙（1982）によると、二重目的語文とは一つの述語動詞に対してその後に目的語が二つ現れる文を指す。例えば、次の例文①から③までが典型的な二重目的語文である。

- ① 我送他一张画。(加藤 2006 引用例)
(私は彼に絵を一枚プレゼントする。)
- ② 他买了我一所房子。(加藤 2006 引用例)
(彼は私から家を一軒買う。)
- ③ 他们叫他老大哥。(加藤 2006 引用例)
(彼らは彼をお兄さんと呼ぶ。)

例文①の二重目的語は“他”と“画”である。この文は「私」が「彼」に「絵」をあげる、言い換えれば「私」が「彼」に「絵」を「授与」するという意味を表している。朱徳熙氏の言う「授与」を表わす二重目的語文である。例文②の二重目的語は“我”と“房子”である。この文は「彼」が「私」から「家」を買う、言い換えれば「彼」が「私」から「家」を「取得」するという意味を表している。朱徳熙氏の言う「取得」を表わす二重目的語文である。例文③の二重目的語は“他”と“老大哥”である。この文は彼らが彼のことをお兄さんと呼ぶという意味を表し、“他（彼）”という目的語と“老大哥（お兄さん）”という目的語が同一人物を指すことを表す。これが朱徳熙氏の言う「同一指示」を表わす二重目的語文である。

1.2 「授与」を表わす二重目的語文の論理式

ここでは我々の分析に関連する「授与」と「取得」を表わす二重目的語文にだけ注目したい。まず次の例文④から例文⑥に対して、「授与」を表わす二重目的語文の論理式を見てみよう。

- ④ 他还我五块钱。(加藤 2006 引用例)

(彼は私に五元返す。)

- ⑤ 他递我一枝笔。(加藤 2006 引用例)

(彼は私にペンを一本渡す。)

- ⑥ 他送我一本书。(加藤 2006 引用例)

(彼は私に本を一冊プレゼントする。)

例文④, ⑤, ⑥の論理式を記述すると、それぞれ次の④', ⑤', ⑥'になる。

- ④' 还' (他, 我, 五块钱)

カエス' ～ガ ～ニ ～ヲ

⑤' 递' (他, 我, 一枝笔)

ワタス' ～ガ ～ニ ～ヲ

⑥' 送' (他, 我, 一本书)

トドケル' ～ガ ～ニ ～ヲ

中国語の“还”, “递” 及び “送” はいずれも「授与」の意を表わすため, 論理式④', ⑤', ⑥' はそれぞれ次の④”, ⑤”, ⑥” ように書き直すことができる。

④” 还' (他, 我, 五块钱)

授与スル' ～ガ ～ニ ～ヲ

⑤” 递' (他, 我, 一枝笔)

授与スル' ～ガ ～ニ ～ヲ

⑥” 送' (他, 我, 一本书)

授与スル' ～ガ ～ニ ～ヲ

論理式④”, ⑤” 及び⑥” から, 中国語の「授与」を表わす二重目的語文は次の A のように一般化できると考える。

A. 授与スル' (～ガ, ～ニ, ～ヲ)

A が示しているように、「授与」を表わす二重目的語文は、形式上、主語のほかに二つの目的語を伴う。つまり、「授与」はは三つの個体の間に成り立つ「関係」である。述語論理では、三つの個体の間に成り立つ関係は「三項関数」によって記述される。従って A を関数形式で書き換えると、次の A' になる。

A' 授与スル' (α , β , γ)

～ガ ～ニ ～ヲ

論理式 A' は「授与」を表わす二重目的語文に共通するデータ構造である。データ構造 A' は「～ガ ～ニ ～ヲ」によって意味上制約づけられる。そこで「～ガ ～ニ ～ヲ」をデータ構造 A' に対する意味制約と称することにする。

1.3 「取得」を表わす二重目的語文の論理式

次に例文⑦から例文⑨によって、「取得」を表わす二重目的語文の論理式を考えてみよう。

⑦ 他收了我五块钱。(加藤 2006 引用例)

(彼は私から五元を受け取った。)

⑧ 他偷了人家一把斧子。(加藤 2006 引用例)

(彼はひとさまから斧を一本盗んだ。)

⑨ 他抢了我一张邮票。(加藤 2006 引用例)

(彼は私から切手を一枚横取りした。)

例文⑦, ⑧, ⑨の論理式を記述すると、それぞれ次の⑦', ⑧', ⑨'になる。

⑦' 收' (他, 我, 五块钱)

受ケ取ル' ～ガ～カラ ～ヲ

⑧' 偷' (他, 人家, 一把斧子)

盗ム' ～ガ ～カラ ～ヲ

⑨' 抢' (他, 我, 一张邮票)

奪ウ' ～ガ ～カラ ～ヲ

中国語の“收”, “偷” 及び “抢” はいずれも「取得」の意を表わすため, 論理式⑦', ⑧', ⑨' はそれぞれ次の⑦”, ⑧”, ⑨” ように書き直すことができる。

⑦” 收' (他, 我, 五块钱)

取得スル' ～ガ～カラ ～ヲ

⑧” 偷' (他, 人家, 一把斧子)

取得スル' ～ガ ～カラ ～ヲ

⑨” 抢' (他, 我, 一张邮票)

取得スル' ～ガ ～カラ ～ヲ

論理式⑦”, ⑧” 及び⑨” から中国語の「取得」を表わす二重目的語文の論理式は次の B のように記することができる。

B. 取得スル' (～ガ, ～カラ, ～ヲ)

B が示しているように、「取得」を表わす二重目的語文は、形式上、主語のほかに二つの目的語を伴う。つまり、「取得」は三つの個体の間に成り立つ「関係」である。述語論理では、三つの個体の間に成り立つ関係は「三項関数」によって記述される。そこで B を関数形式で書き換えると、次の B' になる。

$$B' \quad \text{取得スル}' (a, \beta, \gamma) \\ \sim\text{ガ} \quad \sim\text{カラ} \quad \sim\text{ヲ}$$

論理式 B' は「取得」を表わす二重目的語文に共通するデータ構造である。このデータ構造 B' は「 $\sim\text{ガ}$ $\sim\text{カラ}$ $\sim\text{ヲ}$ 」によって意味上制約づけられる。「 $\sim\text{ガ}$ $\sim\text{カラ}$ $\sim\text{ヲ}$ 」をデータ構造 B' に対する意味制約と呼ぶことにする。

2 ヴォイス構文の意味と論理記述

本稿では現代中国語の「使役」、「処置」及び「受身」をヴォイスであるとする。従って現代中国語におけるヴォイス構文とは「使役」を表す「使」構文及び「V 得」構文、「処置」を表す「把」構文、そして「受身」を表わす「被」構文のことを指す。¹⁾
「使役」を表す「使」構文及び「V 得」構文に共通する意味構造（制約）を次の C ように記すことができる。²⁾

$$C. \quad \text{サセル}' (\sim\text{ガ}, \sim\text{ニ}, \sim\text{ヲ})$$

次に「処置」を表す「把」構文に共通する意味構造は次の D のよう

に記述できる。³⁾

D. モタラス' (～ガ, ～ニ, ～ヲ)

さらに「受身」を表わす「被」構文に共通する意味構造は次の E のように記述できる。⁴⁾

E. コウムル' (～ガ, ～カラ, ～ヲ)

3 二重目的語文とヴォイス構文の論理上の共通性

分析をわかりやすくするために、ここで前述の二重目的語文の式 A, 式 B とヴォイス構文の式 C, 式 D 及び式 E を並べてみよう。

A. 授与スル' (～ガ, ～ニ, ～ヲ)

B. 取得スル' (～ガ, ～カラ, ～ヲ)

C. サセル' (～ガ, ～ニ, ～ヲ)

D. モタラス' (～ガ, ～ニ, ～ヲ)

E. コウムル' (～ガ, ～カラ, ～ヲ)

論理式の意味制約 A, B, C, D, E を観察すると、ヴォイス構文が二重目的語文と同じ意味構造を持っている、言い換えれば、論理上共通

性を持つことがわかる。従って、ヴォイス構文と二重目的語文は意味上密接に関わっていることがわかる。

二重目的語文の意味構造を関数形式で表記したものが前述の式 A' と式 B' である。そこで、二重目的語文と論理上共通性を持つヴォイス構文の意味構造も関数で書き換えうると考える。二重目的語文は三つの項を持つ関数であった。従って、ヴォイス構文も三項の項を持つ関数で表記しうる。本稿でヴォイス構文を三つの項を持つ関数とするのは二重目的語文の構造及びそれに対する意味制約をも考慮したのである。それぞれ次の式 C', 式 D', 式 E' である。

C' サセル' (α , β , γ)
 ～ガ ～ニ ～ヲ

D' モタラス' (α , β , γ)
 ～ガ ～ニ ～ヲ

E' コウムル' (α , β , γ)
 ～ガ ～カラ ～ヲ

4 二重目的語文とその同構(isomorphism)としてのヴォイス構文

二重目的語文とヴォイス構文は同構であり、ヴォイス構文は二重目的語文が拡張されて得られた構文であると考えることができる。なぜそう言えるか、考えてみよう。

まず二重目的語文について考えてみよう。「授与」を表す二重目的語文を見してみる。次の⑪と⑫の文を考えよう。

⑪ 我送他一幅画。

(私が彼に絵を一枚プレゼントした。)

⑫ 我还小李十块钱。

(私が李さんにお金を十元返した。)

⑪と⑫は「授与」を表す二重目的語文である。⑪では、直接目的語が「一幅画」であり、間接目的語が「他」である。ここで注意しなければならないのは文1において、直接目的語は単独の名詞の「画（絵）」ではなくて「数量詞＋名詞」の「一幅画」であることである。朱徳熙（1980）が指摘している通り、二重目的語文においては、単独の名詞が直接目的語になることを排斥する傾向があり、「数量詞＋名詞」構造がもっとも優勢的な地位を占めるのである。同様に、⑫では、直接目的語が「十块钱」であり、間接目的語が「小李」である。従って、⑪と⑫の意味は次の⑪' と⑫' のように論理式で記述できる。

⑪' 送' {我, 他, 有' (画, 一幅)}

～ガ ～ニ ～ヲ

⑫' 还' {我, 小李, 有' (钱, 十块)}

～ガ ～ニ ～ヲ

式⑪' では、“送' ”が表しているのは“我”と“他”と“有' (画, 一幅)”の三者の間の関数関係である。“我”と“他”は「個体」であるが、“有' (画, 一幅)”は命題である。式⑫' では、“还' ”が表しているのは“我”と“小李”と“有' (钱, 十块)”の三者の関数関係である。そのうち、“我”と“小李”は「個体」であるが、“有' (钱, 十块)”は

命題である。従って、「授与」を表す二重目的語文は二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表すことがわかる。これを「結論1」とする。

次に「取得」を表す二重目的語文を見てみよう。次の⑬と⑭の文について考えてみよう。

⑬ 我买了他一所房子。

(私が彼から家を一軒買った。)

⑭ 他偷了我一张邮票。

(彼が私から切手を一枚盗んだ。)

⑬と⑭は「取得」を表す二重目的語文である。⑬では、直接目的語が「一所房子」であり、間接目的語が「他」である。⑭では、直接目的語が「一张邮票」であり、間接目的語が「我」である。従って、⑬と⑭の文の意味は次の⑬' と⑭' の論理式のように記述できる。

⑬' 买' {我, 他, 有' (房子, 一所)}

～ガ ～カラ ～ヲ

⑭' 偷' {他, 我, 有' (邮票, 一张)}

～ガ ～カラ ～ヲ

式⑬' では、“买'” が表しているのは“我”と“他”と“有' (房子, 一所)”の三者の間の関数関係である。“我”と“他”は「個体」であるが、“有' (房子, 一所)”は命題である。式⑭' では、“偷'” が表しているのは“他”と“我”と“有' (邮票, 一张)”の三者の関数関係である。そのうち、“他”と“我”は「個体」であるが、“有' (邮票, 一

張)”は命題である。従って、「取得」を表す二重目的語文は二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表すと言える。これを「結論2」とする。

結論1と結論2を整理してみよう。結論1は、「授与」を表す二重目的語文は二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表すであった。結論2は、「取得」を表す二重目的語文は二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表すである。従って、二重目的語文全体は二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表すことがわかる。これを「結論1'」とする。

次にヴォイス構文の場合について考えてみよう。次の⑮、⑯及び⑰の文はヴォイス構文である。

⑮ 他把我打了。

(彼が私を叩いた。)

⑯ 他让我走。

(彼が私に行かせた。)

⑰ 我被他打了。

(私が彼に叩かれた。)

文⑮は「把」構文である。その意味は次の⑮'のように論理式で記述できる。

⑮' 把' {他, 我, 打' (他, 我)}

モタラス' ～ガ～ニ ～ヲ

式⑮' では、“把'”が表しているのは“他”と“我”と“打' (他, 我)”の三者の間の関数関係である。“他”と“我”が「個体」であり、

“打’（他，我）”が「命題」である。従って，「把」構文は二個の「個体」と一個の「命題」の間の関数関係を表すと言える。これを「結論3」とする。

⑬の文は「使」構文である。その意味を表す論理式は次の⑬’のように記述できる。

⑬’ $\text{‘使’} \{ \text{他，我，走’（我）} \}$
 サセル’ ～ガ ～ニ ～ヲ

式⑬’では，“使’”が表しているのは“他”と“我”と“走’（我）”の三者の間の関数関係である。“他”と“我”が「個体」であり，“走’（我）”が「命題」である。従って，「使」構文は二個の「個体」と一個の「命題」の間の関数関係を表すと言える。これを「結論4」とする。
 ⑭の文は「被」構文である。その意味は論理式で次の⑭’のように記述できる。

⑭’ $\text{‘被’} \{ \text{我，他，打’（他，我）} \}$
 コウムル’ ～ガ～カラ ～ヲ

式⑭’では，“被’”が表しているのは“我”と“他”と“打’（他，我）”の三者の間の関数関係である。ここでの“他”と“我”は「個体」であり，“打’（他，我）”が「命題」である。従って，「被」構文は二個の「個体」と一個の「命題」の間の関数関係を表すと言える。これを「結論5」とする。

これまでの結論3，4，5を整理してみよう。結論5は，「把」構文が二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表す。結論6は，

「使」構文が二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表す。結論7は「被」構文が二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表す。「把」構文, 「使」構文及び「被」構文は現代中国語のヴォイス構文である。ここで現代中国語のヴォイス構文が全体として二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表すことがわかる。これを「結論2'」とする。

今度は結論1', 結論2' を併せて見てみよう。結論1' は二重目的語文が二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表す。結論2' は現代中国語のヴォイス構文が二つの「個体」と一つの「命題」の間の関数関係を表す。つまり二重目的語文は二つの個体と一つの命題の関数と解釈され, ヴォイス構文も二つの個体と一つの命題の関数と解釈される。どちらも三つの項の間の関数であって, 述語の部分が「授与」, 或いは「取得」という意味で共通している。従って, 二重目的語文とヴォイス構文は同構 (isomorphism) であると考えられる。

以上の議論を整理してみよう。二重目的語文は「3項の個体によって構成されている, 3項を項とする関数である。つまり, $\varepsilon' (a, \beta, \gamma^5)$ である。」このデータ構造は「 a ガ β ニ γ ヲ与エル ($\varepsilon 1'$)」という「授与」の意味構造制約を有するものと, 「 a ガ β カラ γ ヲモラウ ($\varepsilon 1'$)」という「取得」の意味構造制約をもつものの, あわせて二種類の意味構造制約を持つ。従って, 二重目的語文は

$\varepsilon 1' (a, \beta, \gamma),$	$\varepsilon 2' (a, \beta, \gamma)$
与エル ~ ガ ~ ニ ~ ヲ	モラウ ~ ガ ~ カラ ~ ヲ

と定義される。

これに対してヴォイス構文は「2項の個体と1項の命題によって構成される3項を項とする関数である。つまり, $\varepsilon' (a, \beta, \gamma)$ である」。このデータ構造は「 a ガ β ニ γ ヲモタラス ($\varepsilon 1'$)」という「授与」の

意味制約構造を有するものと、「 a ガ β カラ γ ヲ コウムル ($\varepsilon 2'$)」という「取得」の意味構造制約を持つものの、あわせて二種類の意味構造制約を持つ。したがって、ヴォイスは

$\varepsilon 1' (a, \beta, \gamma),$	$\varepsilon 2' (a, \beta, \gamma)$
モタラス～ガ～ニ～ヲ	コウムル ～ガ～カラ～ヲ

と定義される。

図示すると、次の図1のようになる。

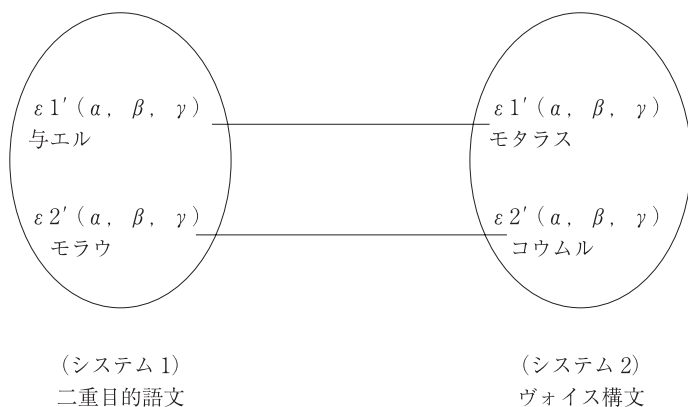


図 1

図1を見てみよう。図1において、システム1は二重目的語文を表し、システム2はヴォイス構文を表す。システム1の構成部分である $\varepsilon 1' (a, \beta, \gamma)$ がシステム2の構成部分である $\varepsilon 1' (a, \beta, \gamma)$ に対応し、システム1の構成部分である $\varepsilon 2' (a, \beta, \gamma)$ がシステム2の構成部分である $\varepsilon 2' (a, \beta, \gamma)$ に対応している。つまり、システム1とシステム2は関数対関数（或いは、規則対規則）が一对一对応していることになる。即ち、同構 (isomorphism) である。ここでシステム1は二重目的語文を表し、システム2はヴォイス構文を表してい

るため、二重目的語文とヴォイス構文は同構であることになる。

同構 (isomorphism) という概念はもともと数学の概念であるが、意味論の研究においても重要な概念と言える。なぜなら、同構であることによって言語の普遍性を発見できるからである。図 1 を例に具体的に言えば、一般的にシステム 1 が成立する時、その成立は基本的に ad hoc (恣意的) である。しかし、そのシステム 1 に対応するシステム 2 が存在することが証明され、さらに、構成部分が一対一対応していると、システム 1 が恣意的な成立から普遍的な成立に一步近づくことになる。つまり、システム 1 の普遍性を証することになるからである。同構であることの証明はとりもなおさず、システム成立の意義の証明になっているのである。

5 二重目的語文からヴォイス構文への展開

二重目的語文がヴォイス構文の基礎であり、ヴォイス構文は二重目的語文の拡張により生まれると考えてみよう。ここでは二重目的語文がどのように拡張されてヴォイス構文に至るかについて述べる。

すでに提示したように、「授与」を表す構文のデータ構造と意味制約は次の A' である。

A' 授与スル' (α , β , γ)
 ～ガ ～ニ ～ヲ

「授与」は「ヤル」という意味である。「ヤル」からさらに「モタラス」という意味が派生される。それを表すのが現代中国語の「把」構文である。図示すると、次の図 2 ようになる。

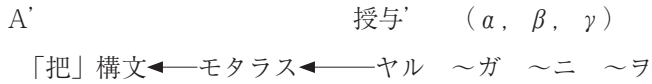
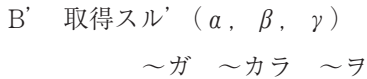


図 2

すでに述べたように、「取得」を表す構文のデータ構造と意味制約は次の B' である。



「取得」はつまり「モラウ」という意味である。「モラウ」からまた「コウムル」という意味が派生する。それを表すのが現代中国語の「被」構文である。図示すると、次の図 3 のようになる。



図 3

上の図 2 及び図 3 が示しているように、二重目的語文からヴォイス構文に至る途中で、具体的な意味から抽象的な意味が派生する。その抽象的な意味からまた「把」構文や「被」構文や「使」構文が派生される。そのプロセスを示すと、次の図 4 になる。

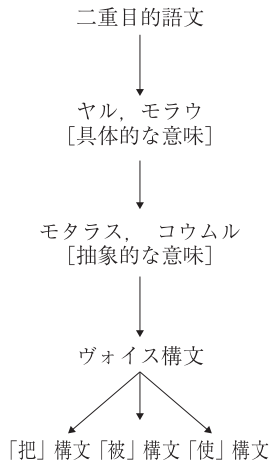


図 4

図 4 は二重目的語文からヴォイス構文に至る途中で「やる, もらう」という共通する具体的な意味が派生する。派生された「やる, もらう」という具体的な意味からさらに「抽象的な意味」が派生する。その「抽象的な意味」が場に応じて「把」構文或いは「被」構文或いは「使」構文によって実現される。かくして、二重目的語文の発展拡張がヴォイス構文につながるという考えが成立することになる。

参考文献

- 范曉, 2001, 「動詞の配価和漢語の把字句」, 『中国語文』, 第四期
 范曉・張豫峰, 2001, 「“V 得” 後主謂結構的語義分析」, 『中国学研究』, 第四期
 方立, 1997, 『数理語言学』, 北京語言文化大学出版社
 方立, 2000, 『邏輯語義学』, 北京語言文化大学出版社
 何英玉, 2005, 『語義学』, 上海外語教育出版社
 胡附・文棟, 1995, 『現代漢語語法探索』, 北京東方書店

- 蔣巖·潘海華, 1998, 『形式語義學引論』, 中國社會科學出版社
- 金允經, 1998, 「關於現代漢語被動句的感情色彩」, 『語言研究的新思路』, 上海教育出版社
- 呂叔湘, 1965, 「“把”字句、“把”字句動詞帶賓語」, 『漢語語法論文集』, 北京商務印書館
- 呂叔湘, 1980, 「把字用法的研究」, 『漢語語法論文集』, 北京商務印書館
- 呂叔湘, 1996, 『現代漢語八百詞』, 北京商務印書館
- 呂文華, 1994, 「被動句的類型和使用條件」, 『對外漢語教學語法探索』, 語文出版社
- 馬純武, 1981, 「也談“被”字句的語義問題」, 『漢語學習』, 第六期
- 馬真, 1985, 「“把”字句補議」, 『現代漢語虛詞散論』, 北京大學出版社
- 木村英樹, 1997, 「漢語被動句的意義特徵及其結構上之反映」, *Cahiers de Linguistique-Asia Orientale* 26
- 沈家煊, 1995, 「“有界”與“無界”」, 『中國語文』, 第五期
- 沈家煊, 2002, 「如何處置“處置式”——試論把字句的主觀性」, 『中國語文』, 第五期
- 宋玉柱, 1992, 「“把”字句」, 『現代漢語語法基本知識』, 語文出版社
- 宛新政, 2005, 『現代漢語致使句研究』, 浙江大學出版社
- 王還, 1957, 『“把”字句和“被”字句』, 上海教育出版社
- 王靜, 1996, 「從語義級差看現代漢語“被”字句的使用」, 『語言教學與研究』, 第二期
- 溫琳, 2008, 「現代中國語のヴォイス構文の意味と論理」(博士論文)
- 熊仲儒, 2003, 「漢語被動句的句法結構」, 『當代語言學』, 第三期
- 熊仲儒, 2004, 『現代漢語中的致使句式』, 安徽大學出版社
- 薛鳳生, 1987, 「試論“把”字句的語義特徵」, 『語言教學與研究』, 第一期
- 薛鳳生, 1994, 「“把”字句和“被”字句的結構意義」, 『功能主義和漢語語法』, 北京語言學院出版社
- 張伯江, 2000, 「論“把”字句的句式語義」, 『語言研究』, 第一期
- 張伯江, 2001, 「被字句和把字句的對稱與不對稱」, 『中國語文』, 第六期
- 張旺熹, 1991, 「“把”字結構的語義及其語用分析」, 『語言教學與研究』, 第三期
- 周紅, 2005, 『現代漢語致使範疇研究』, 復旦大學出版社
- 朱德熙, 1980, 『現代漢語語法研究』, 北京商務印書館
- 朱德熙, 1982, 『語法講義』, 北京商務印書館
- 加藤宏紀, 2006, 「現代中國語の二重目的語文とヴォイス構文における「授与」と「取得」」, 『神奈川大學言語研究 N. 28』, 神奈川大學言語研究センター
- 加藤宏紀, 2002, 「現代中國語の「時制」の意味研究」, 『人文研究 第146集』, 神奈川大學人文

学会

川村大, 2005, 「ラレル形述語文をめぐって ——古代語の観点から——」, 『日本語文法』, 五卷
二号

木村英樹, 2000, 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」, 『中国語学』, No. 247

杉本孝司, 1998, 『意味論 1 ——形式意味論』, くろしお出版

布川雅英, 2005, 「「把」構文」の目的語について」, 『言語と文化』, 第 12 号, 神奈川大学大学
院外国語研究科

ウィトゲンシュタイン, 2005, 『論理哲学論考』(野矢茂樹訳), 岩波書店

野矢茂樹, 2006, 『ウィトゲンシュタイン 「論理哲学論考」を読む』, 筑摩書房

松村文芳, 2005, 「「把構文」と「被構文」に用いられる「給」の意味と論理」, 『語学教育研究論
叢第 22 号』, 大東文化大学語学教育研究所

アイバン・A・サグ、トーマス・ワソー, 2001, 『統語論入門：形式的アプローチ』(郡司隆男、
原田康也訳), 岩波書店

- 1) 詳細については筆者の博士論文「現代中国語のヴォイス構文の意味と論理」(2008)をご参照されたい。
- 2) 詳しい論述については筆者の「現代中国語における使役構文の意味と論理構造 その一、その二」をご参照されたい。
- 3) 詳細な議論については筆者の「現代中国語における処置構文の意味と論理構造 一把構文一」をご参照されたい。
- 4) 詳細については筆者の博士論文「現代中国語のヴォイス構文の意味と論理」(2008)の第五章をご参照されたい。
- 5) ここでは γ を命題ではなく、個体として扱う。